

事業事前評価表

国際協力機構アフリカ部中西部アフリカ第二課

1. 案件名（国名）

国名：コンゴ民主共和国

案件名：キンシャサ市ポワ・ルー通り補修及び改修計画

Le Projet de Réhabilitation et de Modernisation de l'Avenue des Poids Lourds à Kinshasa

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国におけるインフラ（道路）セクター現状と課題

コンゴ民主共和国（以下、「コ」国）においては長年の内戦の影響による政府機能の不全、経済活動の停滞や人口の一極集中化、失業者の増大、生活インフラ（道路、水、通信等）の未整備による社会の不安定化、並びに、首都機能の停滞が深刻な問題となっている。「コ」国では熱帯雨林気候にあり、1年のうち約9ヶ月間が激しい雨を伴う雨期となっており、道路の傷みは急速に進行する。このような中で、首都圏内の道路も内戦中に維持管理が行われず、主要幹線道路においても舗装の老朽化が顕著であり、円滑な交通の妨げとなっているため、深刻な渋滞が常態化しており首都機能を低下させている。

現在、空港と市内を結ぶ主要道路としては、ルムンバ通り、ポワ・ルー通りの2つのルートがある。後者は、西のバ・コンゴ州と、東のバンドゥンドゥ州を結ぶ幹線道路であり、空港とキンシャサ市内を結ぶ連絡道路、さらに沿道に位置する運輸業、製造業のための産業道路となっているが、傷みが激しく、特に雨期においては通常の通行がほとんど不可能な状態となり、蛇行する車で交通が麻痺する状態にある。

(2) 当該国におけるインフラセクターの開発政策における本事業の位置づけ

大統領は就任演説にて掲げた重点5分野の中で、最優先課題にインフラ整備を挙げている。また PRSP および優先行動計画においても、「マクロ経済の安定化と成長」の中で運輸・交通支援を優先課題に挙げている。社会の安定化、経済活動の再活性化、首都機能の回復の上でも、平和の配当を国民が実感する上でも、市内道路の改修・建設は喫緊の課題である。

(3) インフラセクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

2007年2月に行われた二国間政策協議において、対コンゴ（民）支援の柱の一つに「経済開発」を掲げ、中でも経済インフラ整備を重点としており、本案件は右方針に合致した協力である。また、TICAD IV で打ち出された横浜行動計画においても、アフリカにおけるインフラ整備支援は経済開発の観点から、重点分野の一つであり、かかる政策に合致した支援である。なお、インフラセクターの実績は2007年の二国間援助再開（1991年より援助停止）以来、ない。

(4) 他の援助機関の対応

現在、EU、世銀、ベルギー、クウェート等がキンシャサ市にて道路改修支援を行っている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

キンシャサ市において、ポワ・ルー通りの補修・改修を行うことにより、道路網の改善

を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

キンシャサ市（人口約 800 万人）

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容

キンシャサ市内ポワ・ルー通り(12Km)のうち、南端のルムンバ通りとの接続部分から 14 番通り交差点までの区間(4km)の改修等

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、施工管理の他、道路計画、維持管理に関する人材育成については、別途本邦研修にて実施予定。

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費：17.54 億円（概算協力額<日本側>：17.51 億円、<「コ」国側>：0.03 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2009 年 11 月～2011 年 6 月を予定（計 20 ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

責任官庁：インフラ・公共事業・復興省

実施機関：インフラ・公共事業・復興省 インフラユニット

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：「B」（土地収用を伴う住民移転は発生しないが、街路樹 13 本の伐採が必要）

② 影響と緩和・軽減策：可能な限り影響を軽減する設計とする。街路樹については、「コ」国の法律により、伐採数と同数の植樹を行うことが義務付けられている。先方政府による緩和策の着実な実践のモニタリングを行う。

2) 貧困削減促進：大統領が掲げる 5 つの重点分野の一つに位置づけられている「インフラ整備」に合致しており、社会の安定、経済活動の活性化への寄与が期待される。

3) ジェンダー：特に関連なし

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

特になし

(9) その他特記事項

特になし

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

EIA（環境社会配慮）手続きが適切かつスケジュール通りに実施されること

(2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

キンシャサ市内の治安状況がこれ以上悪化しない。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

特になし。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

ポワ・ルー通りは、西のバ・コンゴ州と、東のバンドゥンドゥ州を結ぶ幹線道路であり、空港とキンシャサ市内を結ぶ連絡道路、さらに沿道に位置する運輸業、製造業のための産業道路となっているが、傷みが激しく、特に雨期においては通常の通行がほとんど不可能な状態となる。右道路の改善は、市内・空港間の通行改善のみならず、同国の経済復興の点でも最重要課題のひとつとなっており、妥当性が認められる。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2009 年)	目標値 (2011 年)【事業完成年】
交通容量 (台/時間/車線)	550	1,800
ピーク時(*)の平均走行速度 (Km/h)	8	30

(*) ピーク時時間帯：朝 6 時～9 時、夕方 15～18 時、計 6 時間

2) 定性的効果

キンシャサ市の道路網改善を通じ、経済活動の活性化及び首都機能の復旧に貢献する。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6. (2) 1) のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価 事業完成 3 年後

以 上